

協働による地域づくり

『ぎのわん地域づくり塾』が開催されました

宜野湾市の協働による地域づくりに関心のある市内外の18歳以上の方を対象に、平成29年7月9日(日)～11月23日(木)の日程で、ぎのわん地域づくり塾が開催されました。
 第1回公開講座には54人が参加しました。また、全8回の連続講座を受講した受講生は30人(男性:8人、女性:22人)でした。自治会や商工会、NPO法人、学生、社会福祉協議会、行政など、地域の活動を行っている方や関心のある多くの方に参加いただきました。



第3回 宇地泊区の地域課題の「現象」と「原因」を考える

第5回フィールドワーク
～まちあるき・地域インタビュー実践～

以前、地域活動に参加していた高齢者が、また地域活動に参加できるように「高齢者のお宅で趣味や特技を学び、発表会を行う」「自由参加型の場所作り」等を提案。
チームなびい

新しく移住した方は地域の活動をあまり知らず、子育ての悩みなどを相談できる人がなく困っている課題に対し、地域の情報発信や誰でも気軽に立ち寄れる公民館作りを提案。
ぎのわんキャンディーズ

宇地泊区(モデル地区)の課題を解決するためには…

青年会 OB などの高齢になる前の世代が行っている活動へ、いかに参加者を増やすかという課題を設定し、Eイサーを軸とした活動を提案。
やっぱりねこが好き

家庭内保育をしている世帯が地域で楽しめる場をより求めているという地域課題に対し「子育てサロン」を月2回実施し、親子が主体的に楽しめる工夫を提案。
チームそれでも人しあ愛せない

地域活動を行う住民、各団体同士のまとまりは強いが、外からは関わりづらい。開かれた公民館を実現するため、地域の経験者による、料理で全世代が気軽に参加できるイベントの実施を提案。
オールジェネレーション

Voice 塾生の声



エクスタスティン昇子さん (NPO法人)

本当に学ぶことが多い、充実した4カ月でした。知識だけではなく、肌で感じるものも多く、ここで得たことは今後、様々な場面でも活かせると思います。グループメンバー、そして気持ちよく学べるように支えてくれた運営の皆さんには感謝です。



前田真顕さん (スポーツ推進員)

住んでいる宇地泊、真志喜地区に誇りと自信を持つことができました。コンベンションエリアとしての魅力だけではなく、地域住民の開かれた人情の深さに改めて感激しています。また、まち歩きをしなければ、生活の実感がわきません。フィールドワークを通して課題解決へのプロセスが見えた気がします。



安里ひなのさん (琉球大学 学生)

参加するまで地域づくりや地域での活動はあまり知らなかったのですが、様々な活動、年代の方と交流することで良い刺激になりました。

なぜ今、地域づくりが必要なのか

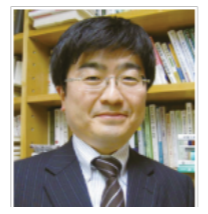
これからの社会では、様々な分野で「一つの組織 団体では対応できない課題」が増えてきています。地域課題を共有し、互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、課題解決を進める「協働による地域づくり」が求められています。

ぎのわん地域づくり塾は、地域内外の多様な人や組織、力、資源をつなぎ合せて、解決の動きをつくりだす、コーディネート者を育成することを目的に、昨年度から開始し、今年度第2期目となる「ぎのわん地域づくり塾2017」を開催しました。

地域づくり塾では、講義、フィールドワーク、ゼミを通じて、モデル地区(市宇地泊区)の地域課題をとらえ、解決のための企画提案を行いました。

地域づくり塾は今回で2期生が修了しました。昨年卒業した1期生は地域づくり塾の企画・運営や子ども・高齢者の居場所づくりなど活発に地域づくりに取り組んでいます。今回卒業した2期生も1期生と共に、月に1度卒業生同士で情報交換や、地域の課題を考える交流会を開催しています。卒業生の今後の活躍を期待しています。

ぎのわん地域づくり塾 アドバイザーのおはなし



高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授 櫻井 常矢 氏

近年の地域の暮らしには、高齢化や人口減少、一人暮らし世帯の増加、自然災害、子育てなど、地域の力がなければ解決できない課題が増え、そうした課題を解決するため「地域づくり」が求められています。一方で、従来の組織・団体だけでは地域の課題を解決することが難しくなってくるため、よその団体や地域と手をつなぐ「連携・協働」が求められます。閉ざされた自治会や団体活動ではなく、他の知恵や工夫を受け入れる外に開かれた地域社会が求められています。

コーディネーターは事業活動の主体ではなく、地域の皆さんが自分の力で頑張ろうとする場面を作っていくことが役割です。塾生の発表はその点を重視したとても良い発表でした。時間をかけてみんなで話し合っていくことは実は大変なことでもあります。でも一人ひとりの声を活かしながら進めていくプロセスが重要なことです。この塾を通して、そのことの大切さを経験できたのではないのでしょうか。ぜひこれからも一緒に頑張っていきたいと思います。